

2-06 オール

1 ブレード

●オールは、水を押すブレード、棒状のシャフト、支点となるスリーブとカラー、手で握るハンドルで構成されています。ブレードは、従来は木でできていて、とても注意深く扱わなければなりません。現在はカーボン繊維が主流で、かなり丈夫です。ブレードの形は、1980年代はマコンと呼ばれる対称形でした。90年代以降は、非対称形状のビッグブレードが主流となりました。

2 シャフト

●シャフトは、オールの柄、棒状部分です。従来は木製を貼り合わせてつくっていましたが、現在はカーボン繊維を主材とした中空のパイプです。カーボンシャフトは、従来の木製シャフトに比べ、非常に軽く強く耐久性もあり、通常のロウイングの負荷で折れる心配はありません。しかし、誤用や不適切な保管、艇の衝突などでは意外に簡単に折れます。どんな素材であれ、シャフトを傷つけたり、日中長く無駄に屋外に放置したりせず、慎重にあつかうことが必要です。

3 スリーブとカラー

●オールロックと接触するピボット、つまり「支点」は、スリーブといわれる「さや」と、カラーとかバトンといわれる「つば」の部品で構成されます。カラーの位置をかえることで、ハンドルの端までの長さ（インボード）やてこ比を調整できます。

●プラスチックスリーブは、潤滑剤は不要と言われていています。しかしオールロックとの摩擦はフェザー・スクウェア動作を妨げ、スリーブの磨耗が早くなるので、時々シリコン系の潤滑スプレーを吹きます。石油系の潤滑剤はプラスチックを傷めます。

4 ハンドル

●手で持つところは、木、アルミニウム系の軽合金、複合繊維などでできています。表面材としてはゴム、ウレタンなどのグリップカバーがかぶせてあります。木の場合は、そのままのこともあります。自前でグリップテープを巻くこともあります。ハンドルに求められる機能は、握りやすく、濡れても滑りにくいことと、適度な柔らかさと大きさなどです。ハンドルは、漕手の手にあわせた太さを選択するか、または木製の場合は整形します。

●また、最近のオールは、インボードが二重になっていて、長さを調整できるものが主流です。しかしこのタイプは、水が内部に入ってしまうことがあるので、日常の点検に注意し、特に、沈した後は、分解して点検しておきましょう。内部に浸水したら、排水後、乾燥させます。

●視覚障害の場合、ハンドルの形状は非常に重要です。グリップを手に持っただけで、ブレードがどの方向に向いているかわかるように、断面形状を調整し手になじむようにするのが理想的です。簡単な工夫としては、ブレードの表側（スクウェアにしたときの指がかかる前面）に、目印になるものを貼り付けておくのがよいでしょう。